

# 1 Min Chart Manual

## V1.00

Developed by Retar.jp

## ■著作権・注意事項・免責事項

本ソフトウェア・文書の利用にあたり、著作権・注意事項・免責事項を承諾いただいたものとしてします。

本ソフトウェア・文書の著作権は作者である Retar.jp が保有しています。

投資は自己判断・自己責任でお願いいたします。本ソフトウェア・文書を使用し、取引をされ何らかの損失を被られても、Retar.jp では責任を一切負いません(間接的・付随的な障害・損失も含め一切の責任を負いません)。自己責任でご利用ください。

Retar.jp の Web サイトからダウンロードしたソフトウェアは本人利用に限り完全無料でご利用いただけます。ソフトウェア・文書の全てまたは一部の複製・コピー・リバースエンジニアリング・改変・2次配布・商用利用・転売・販売等は一切禁止いたします。違反行為を発見した場合は法的処置を行います。

Retar.jp の Web サイト上で配布するソフトウェア・文書は無料提供ですのでサポートなどは行っておりません。万が一、ソフトウェア・文書に不具合や問題があっても当サイトでは修正・対応などができない場合があります。ご利用の環境でトラブルが発生しても助言することはできませんので自己責任でご利用ください。

■ 研究及び勉強するためのソフトウェアです

はじめに、トレードして大儲けするためのソフトウェアではありません。

最大の特徴は、「MT4/5 は時間を認識しづらい」ため、「時間を認識しやすいよう」につくりました。

「MT4/5 に相当するものは、個人投資家でも作れる」と考える、きっかけになるはずで  
す。Retar は、外部向けにつくることで、内部で使用するソフトウェア品質の向上を目指  
しています。

開発アプリケーションは Visual Studio 2019 です。

MT5 API と MT5 の動作の観察だけで、特別な技術は使っていません。

外部向けは機能を最低限にしています。

バグを減らし、マニュアルの機能説明を減らすために削れるだけ、機能を削っていま  
す。

Retar は、貴方のために”儲かるソフトウェア”を無料で作ってくれるイイ人ではありま  
せん。

「い～なあ～」と思うソフトウェアは、作ってもらえる優しい人を探すか、自分で作るしか  
ありません。

## ■前提知識

この資料を理解するためには、テクニカル分析の基本技術を理解しているものとします。

前提知識が必要ななら、あらかじめ本を読んで理解を深めてください。

参考図書を以下にあげます。

先物市場のテクニカル分析（ニューファイナンシャルシリーズ）（日本語）

単行本 - 1990/5/24

ジョン J.マーフィー（著），（編集），日本興業銀行国際資金部（翻訳）

酒田五法は風林火山—相場ケイ線道の極意

単行本 - 2004/5/12

日本証券新聞社（著）

日本テクニカル分析大全（日本語）

単行本 - 2004/8/1

日本テクニカルアナリスト協会（編集）

一目均衡表〈完結編〉（日本語）

単行本 - 1971/8

一目山人(著)

株式罫線の見方使い方—投資家のための戦略図

単行本 - 1984/10/1

木佐森 吉太郎（著）

## ■スキャルピング

スキャルピングへの理解は、マーティン バジュー シュワルツさんの自伝をおススメします。

ピット・ブル — チャンピオン・トレーダーに上り詰めたギャンブラーが語る実録「カジノ・ウォール街」

単行本 - 2000/4/1

マーティン バジュー シュワルツ（著），成田 博之（著），Martin S. Schwartz（著）

■初心者が、テクニカル分析を学ぶために最初に読み込む一冊

テクニカル分析は、日本で生まれたテクノロジーです。

和式テクニカル分析は奥深く、テクニカル分析の源流であり、日本人には古書を日本語で読める優位性があります。

しかしながら、最初に学ぶと良いのは、欧米式テクニカル分析でしょう。

手頃な値段で、週末を技術習得に費やし、読み込むのに3-4カ月かかるのが、ジョン J.マーフィーさんの「先物市場のテクニカル分析」です。

Retar も同じ本で学びました。

確かにネットに書いてあるような事しか書いてありません。

同本に「新味がない」と感じるまで読み込むところが、スタート地点。

そこから、自分なりのオリジナリティのある分析手法を組み立てていくと良いと思います。

先物市場のテクニカル分析（ニューファイナンシャルシリーズ）（日本語）

単行本 - 1990/5/24

ジョン J.マーフィー（著），（編集），日本興業銀行国際資金部（翻訳）

テクニカル分析の技術は、相場ごとで独自の部分と、共通した部分があります。

為替だけ、株だけ、商品だけで使える専用品ではなく、9割ぐらいは共通です。

説明はポンド円ですが、日経 CFD でも同じことが出来るはずです。

慣れてくれば、はじめてみる相場でも、おおよその「上がる」「下がる」が読めるようになってくる。

自転車に乗るようなものであり、習得すれば一生ものの技術です。

## ■開発の経緯

2020年2月、Retar.jpは自前のFX用システムを完成させました。  
さらに、評価するための比較システムとして、MT4用に70Ticksチャート(ベンチマーク)を完成させました。

良いシステムはライバルがあつてこそ性能評価ができます。  
例えば米軍のF35戦闘機の試作機にはYF35とYF32がありました。  
2つを競わせ、ライバルを意識させることで、性能アップを図る意図がありました。

比較のためには、業者のEAを試してみようかとも思いました。  
しかしながら、他人の製造した1製品を、評価するだけでも大仕事ですし、星の数ほどのシステムの評価をする作業を考えると「無理」です。  
結論として採用したのは、似て非なるシステムをゼロから作り、比較検討することでした。

稼働から、2年近く経て、改良余地、新たなる知見である機械学習による機能追加の余地が生まれています。  
そのため、2021年10月、次期システム開発に着手しました。  
最初に着手したのは、基本モジュールの開発。

新しい知見を加えた、データ共有ライブラリ「Retar Shared Price」、演算ライブラリ「Retar Vektored Price2」は、「MT4/5に代わるソフトウェア」を実現するための基本ライブラリです。  
新規スクラッチであり、土台となるモジュールであるため、先行テストを優先しました。

## ■主な仕様

- 裁量トレードシステム
- 内部のシステムの開発手順を踏襲し、改善策のノウハウの習得、標準化
- アカウンタビリティ確保のために文書化
- 汎用的なテクニカル指標を採用
- ネット公開とする

## ■実行ファイルの公開場所

[https://www.retar.jp/?page\\_id=18093](https://www.retar.jp/?page_id=18093)

## ■トレードのメカニズム・「大きな流れ」と「小さな流れ」

相場を模式化する方法は色々ありますが、単純化するために「大きな流れ」と「小さな流れ」にわけて考えます。

「大きな流れ」と「小さな流れ」の関係は、「大きな流れ」の中に幾つかの「小さな流れ」が包含されていると定義します。

トレードの手法は「大きな流れ」に逆らわず、「小さな流れ」で仕掛ける。

〈図1・「大きな流れ」と「小さな流れ」の模式図〉

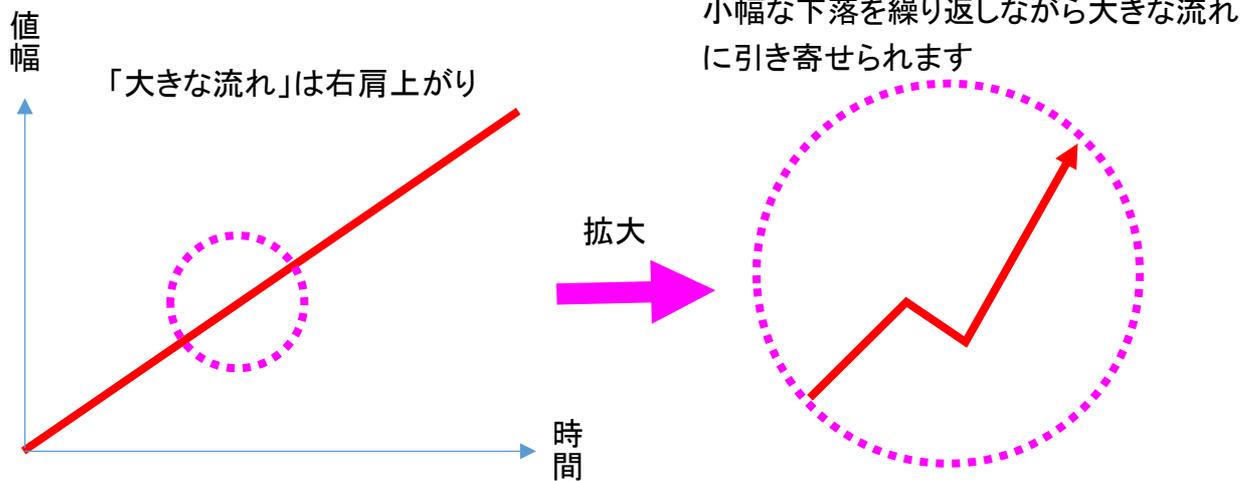


図1は、赤い線は値動き、縦軸に値幅、横軸に値段をとったチャートです。

左の図は「大きな流れ」として右肩上がりのチャートです。

右の「大きな流れ」部分的な拡大が「小さな流れ」です。

全体としては上げていく相場でも、途中で小幅な下落を繰り返しながら、「大きな流れ」に引き寄せられていくと考えます。

一般的な言い方をすると「押しを入れながら上げていく」、「調整しながら上げていく」などです。

## ■「大きな流れ」の種類

「大きな流れ」の上昇相場を考えます。

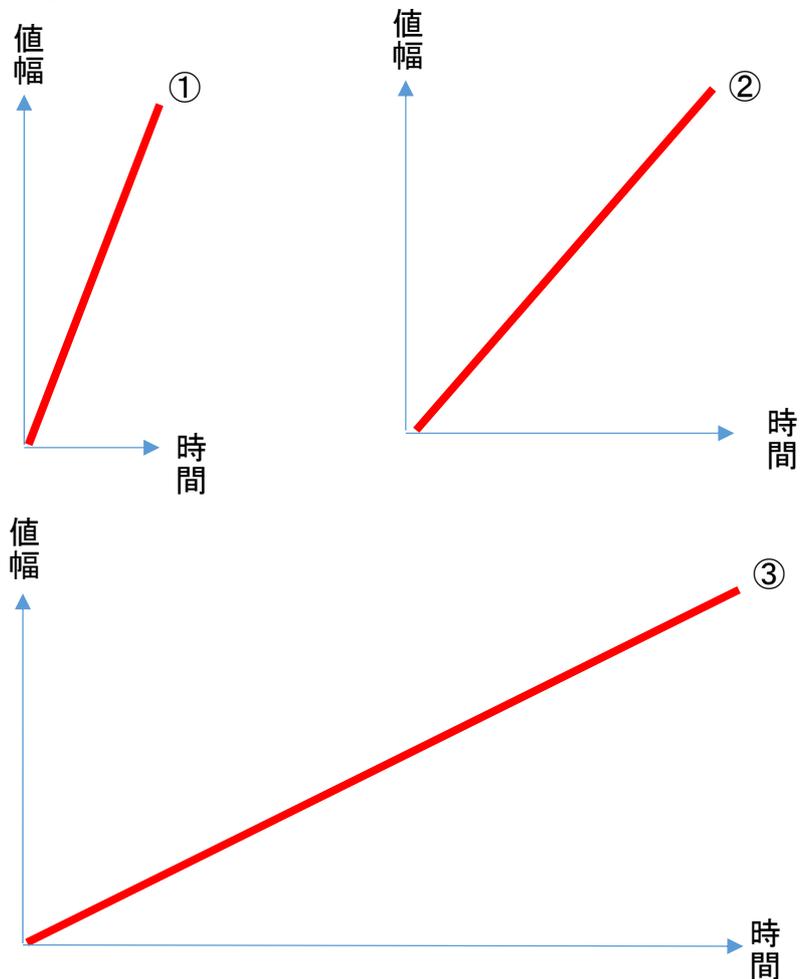
上昇相場と一口に言っても、一定値幅を達成するために必要な時間は、相場の局面で異なります。

図2は縦軸を値幅、横軸を時間とした模式図です。

同じ値幅の上昇を表現していますが、値幅を達成するための時間が異なります。

①は短期で大きく上げている状態、②は中間、③はジックリと上げており、値幅を達成するのに時間がかかっています。

図2・大きな流れ



■「大きな流れ」の中の「小さな流れ」

「大きな流れ」の中で、それぞれ「小さな流れ」が発生しています。

図3は「大きな流れ」(赤)の中に「小さな流れ」(水色)を入れた模式図です。

上下チャートとも、同じ値幅を達成する間に、小さな押しが入る状況が生まれます。

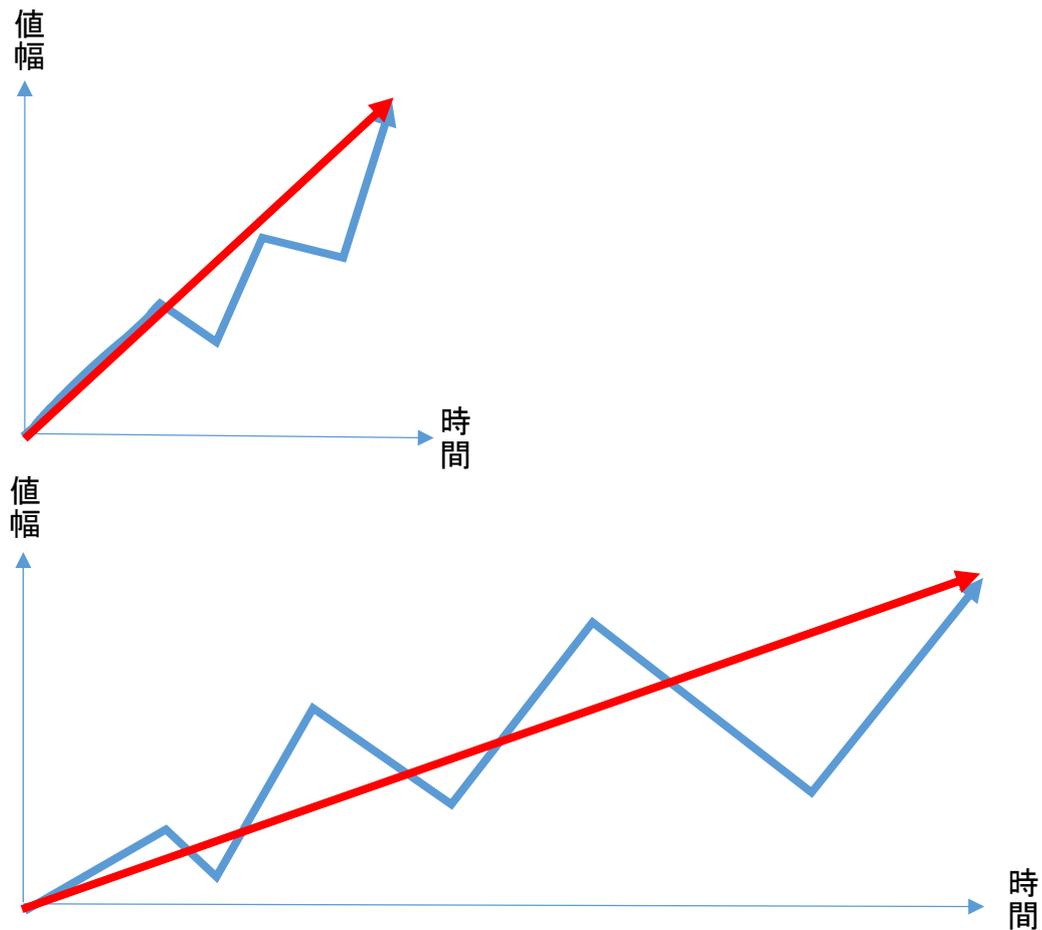
図3の下のチャートでは、全体としては上げの「大きな流れ」であっても、「小さな流れ」となる途中で押しがある。

押しは大きいこともあれば、小さいこともある。

値幅を達成するのに、時間がかかれば、トレンド反転か？と思うような押しに出会うことも発生します。

一方、同じ値幅を短時間で達成しようとする図3の上のチャートでは、時間当たりに発生する押しの回数は少なくなる傾向があると考えられます。

<図 3 速い値動きと遅い値動き>



■「大きな流れ」と「小さな流れ」とプラス  $\alpha$  をチャートに表示

今回のシステムでは、常に「大きな流れ」はあると仮定しています。

相場のなかで、「大きな流れ」が分かるのが、場中の2割ぐらいだろうと思って取組みます。

残り8割の時間は、「大きな流れ」がわからないので、取引しません。

チャートに表示されているテクニカル指標は、時系列新値足のロウソク足以外に3つのテクニカル指標が表示されています。

- ① 緑は終値の遅行スパン。終値を50分遅らせた折れ線。
- ② 赤は20EMA(指数平滑移動平均)。
- ③ 青は基準線。104分間のハイロー(HL)バンドの半値。

「大きな流れ」を掴むために、主に基準線を使います。

「小さな流れ」をつかむために、主に移動平均線を使います。

更に遅行スパンを補助として使います。(マニュアルでは遅行スパンの使い方を割愛しています)

基本的な考え方は、「基準線でトレンドの発生を確認して、トレンドがシッカリとした段階から、移動平均線を信用してトレードしましょう！」です。



## ■時系列新値足

新値足を時系列表記できるようにした、アルゴリズムです。

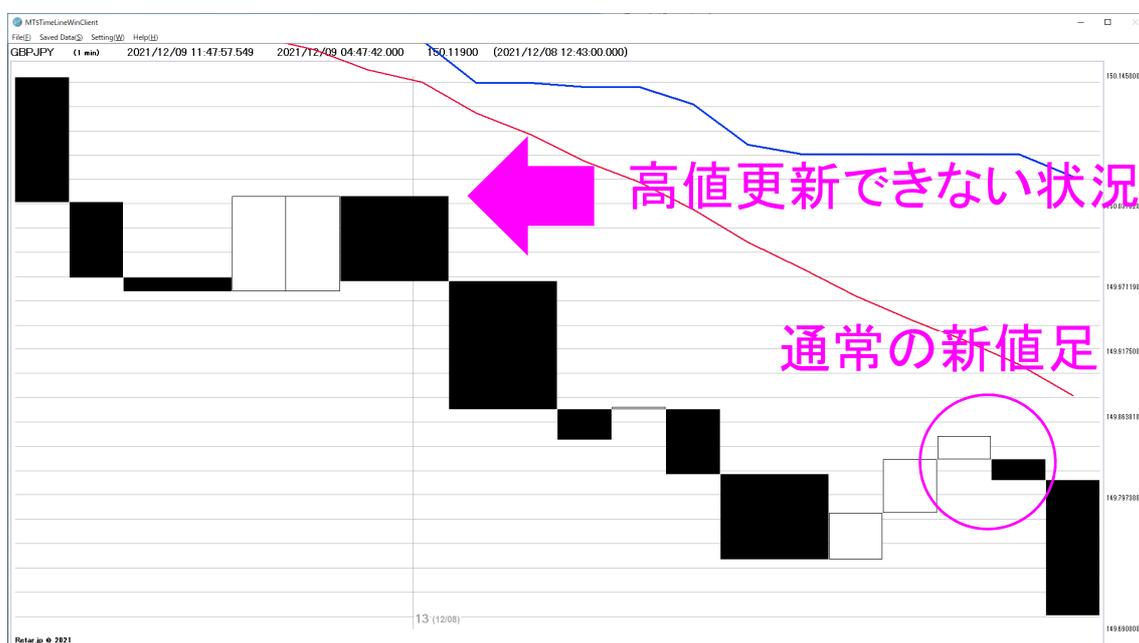
終値がハラミとなったときに、1つ前の足をコピーして書いています。

ロウソク足のテクニカルデータを、そのまま使用でき、値段の更新ができない状況が見やすくなると思います。

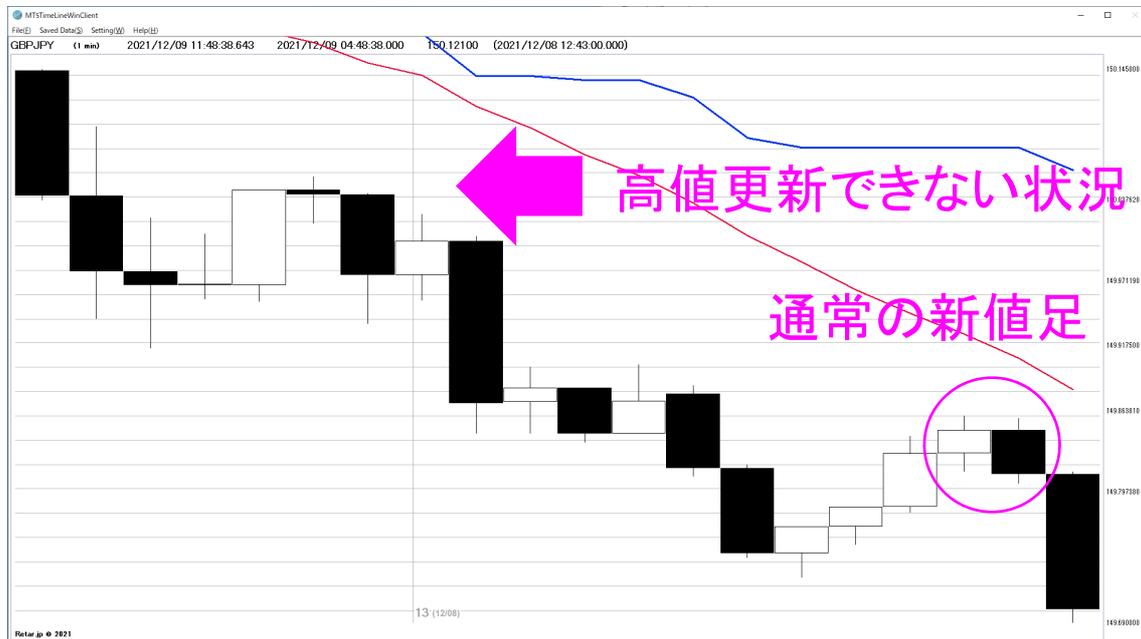
新値足の特徴はそのままなので、新値3手などは、酒田五法をそのまま使えます。

見やすいかどうかは、ユーザ判断で、切り替えて使用することができます。

### 時系列新値足の表示の場合



上記の「時系列新値足」を通常のロウソク足で書いた場合



## ■ 損切

損切はエントリー時に必ず決めます。

瞬間判断が必要な1分足のトレードでは、前もって切る地点も決めておかなければ、確実な執行ができません。

利食いのルールは、それぞれで考えます。

「最悪の損切」は、終値の基準線超えと考え、その前に損切る、同値撤退するなどを考えましょう。

今回のチャートでは、時系列新値足を採用しています。

新値足であるため、アゲントの「新値3手抜き」を使うこともできます。

「最悪の損切」があるため、基準線より上では買持ちしかできない、基準線より下では売持ちしかできないなのですが、最悪の損切まで、待つて執行する必要はありません。

エントリー時に”最悪”より、マシな損切を決めておきます。

例えば図のような状況の買いをした場合、急落したため、基準線まで待っていても、折角、利が乗っても、損切したらスプレッド分とられたとなります。

「ヤバい」と感じたら、とにかく切る。



### ■用語確認・移動平均の「舐め」とは

移動平均の「舐め」とは、移動平均線に足が数手、抑えられる現象です。

視覚的感覚でみて、足が移動平均を舐めるような動きを指しています。

下落途上に 20EMA が超えられずに抑え込まれた例。(マゼンダ)



上昇途上に 20EMA を割り込まなかった例。(マゼンダ)



## ■用語確認・バイ菌足

バイ菌足とは、テクニカル指標を無視して動く値動き。

値動きの8割ぐらいの持ち合いの時間帯は、バイ菌足になります。

例えば、丸の地点では結果として大きな下落になっても、途中で移動平均を跨ぎ、基準線を跨いでいます。

「テクニカル指標に素直に動いてくれよなあ〜」と思いますが、大部分はこういうもの。その中でも、テクニカル指標に素直な時だけ仕掛けることで、負けが減ります。

バイ菌足は銘柄によっても、使う指標によっても、発生が異なります。

一般的には、大相場や流動性が高い銘柄ほど、バイ菌足は少なくなる傾向があります。



■用語確認・“土器“

全値戻しのことです。

縄文式土器によく似ているので“土器”で、そっち系の仕掛けです。

往復ビンタ(買ってヤラレ、売ってヤラレ)を喰らいやすく、「難しい」という相場では非常によく見かけるはずです。



### ■トレード2時間の法則

今回のシステムでは、「トレンドは2時間ワンクール」と考えます。

前提条件であり、「こういうもの」と決めます。

短期トレード、特にスキャルピングでは、大きく動いていないことがほとんど。

どの銘柄も2時間以上建玉を持っていると、「一旦、利食ってから、再度、建玉した方がイイよね」が殆どのはずです。

そして「2時間ワンクール」で、最大3セット発生し、どんなに伸びたトレンドでも6時間以内と考えます。

もちろん、2時間も経たずにトレンドが反転してしまう事もある。

そういう時は、時間のかかる「大きなトレンド」もしくは持ち合いかもしれないと考えます。

2時間とは言いますが、厳密に2時間ではありません。

2時間かからないこと、中途半端で反転したり、モミ合ったりも普通にあります。

凡その時間の目安の2時間ということです。

## ■トレードの開始と終了

上昇相場なら、トレンドの開始地点は、基準線の方が上向いた地点です。

横向きは同じトレンドが続いていると考えます。

トレンドの終了は基準線が下を向いた地点です。

下落も全く同じで、基準線の下向き地点がスタートで、上向くまでの区間が下落トレンドです。

このように定義すると、仕掛けられるかどうかはともかく、必ず方向性があるとなります。

典型的なパターンは「2時間でワンクール」か、4時間で「2時間ワンクール」が2つ。

時々、「3クール」で6時間なら、大きな上げ下げです。

トレンドの種類は「松竹梅」と名付けます。

2時間持つトレンドは「松」、4時間持つのは「竹」、6時間持つのは「梅」です。

下記のチャートの上昇の場合は最初のトレンドは2時間。そして、その後2時間は、新高値が取れずに下落するパターンでした。

1時間目、2時間目では、急速な上げがありました。

3時間目は基準線が横方向を向き、高値が更新できなくなります。

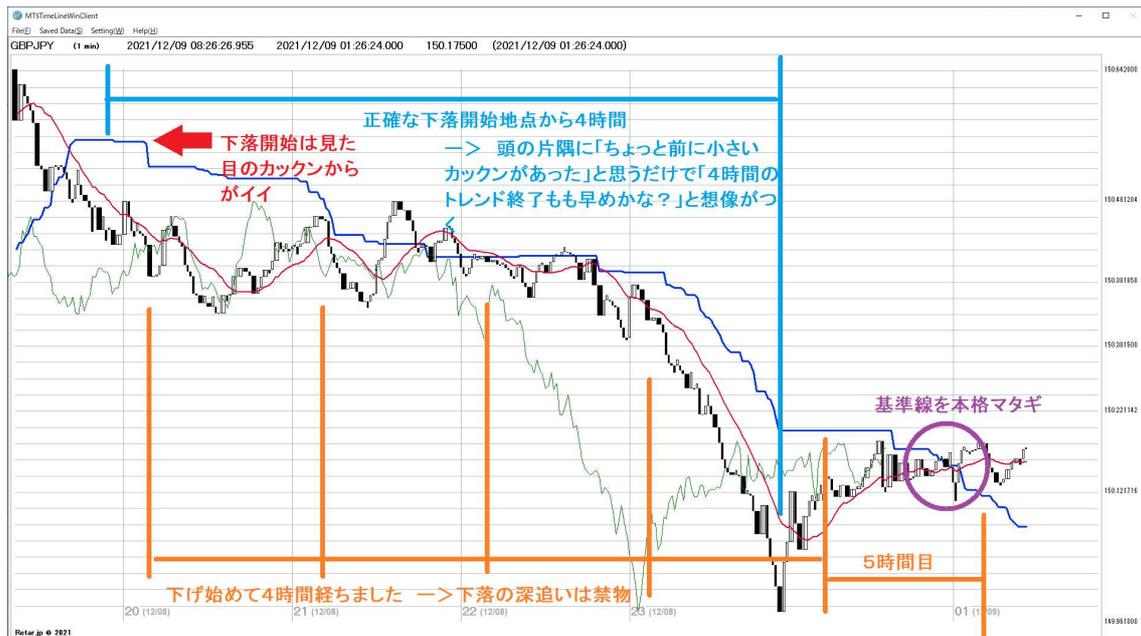
4時間目では、基準線が下を向き、この地点でトレンド終了が確認できます。

しかし、紫の丸の地点で、すぐに再度、基準線が上がるため、もみ合い臭い判断でトレンドの終了臭い確認になります。

まとめると、前半2時間は上げ、後半2時間はモンだとなります。



■トレンド開始地点は、基準線がわかるように動き始めた地点から  
 トレンド開始地点は厳密には少し下がった地点ですが、見なしとして、赤い矢印が適切です。  
 それでも、正確な下落地点は、重要な示唆を示しており、「ちょっと前に小さい下落反転を見た」記憶があれば、大底などは2時間より、4時間より前に発生する想定ができます。



■大きなトレンドは6時間までが目安

トレンドは最大6時間までを想定しますが、最後の2時間は「美味しい出汁ガラタイム」と見なしてしまいます。

もしくは、別トレンドがスタートしたなら、改めて考え直します。

基準線が上がり始めてからが、時間計測する起点です。

最初の2時間が美味しいのが基本。

そして、もう一丁美味しい2時間(合わせて4時間)が続くパターン。

4時間がオワッタ時点では「見ているだけ」で十分と考えます。

実際に確認してみると5時間目以降はそうそう美味しい思いはできません。

さらに6時間目を過ぎて、基準線が下向くまでが、基本サイクル。

完璧ではありませんが、全ての相場でホボこうなるように、基準線を調整しています。



■ 1日中眺めていても疲れるだけ

1日中、「何時何が底、天井」みたいな追い方をしても、疲れるだけです。基準線の上がり始めから何時間かをみているだけで、およその区切りがわかる。区切り前後に、美味しいエントリポイントがあると想像しておけば、そうそう外しません。

いつも完璧ではないのですが、ポイントは以下です。

以下のチャートは6時間のトレンドが発生した「梅」の例です。

- ① 基準線が上がり始めて、5時間を超えて同じトレンドだと思って、新規に建玉すると、ロクなことがない
- ② 1時間目と3時間目が、美味しい事が多い
- ③ 「いつ入れるか」の凡その見当がつくため、変なところで入らなくて済む



## ■トレード例1・上昇パターンと下降パターン

ポンド・1分足・時系列新値足を使って実際の上昇を1分毎に追ってみます。

右上のカッコ書きの時間に7時間足したものが日本時間です。

2021/12/08 09:56

基準線が上がり始める1分前のチャートです。

マゼンダ丸の地点から下落トレンドは始まり、大分上げてきていますが、未だ下落の押しのうちです。

この時に、ショートの建玉を持っていることはなく、既に切っているのがルールです。

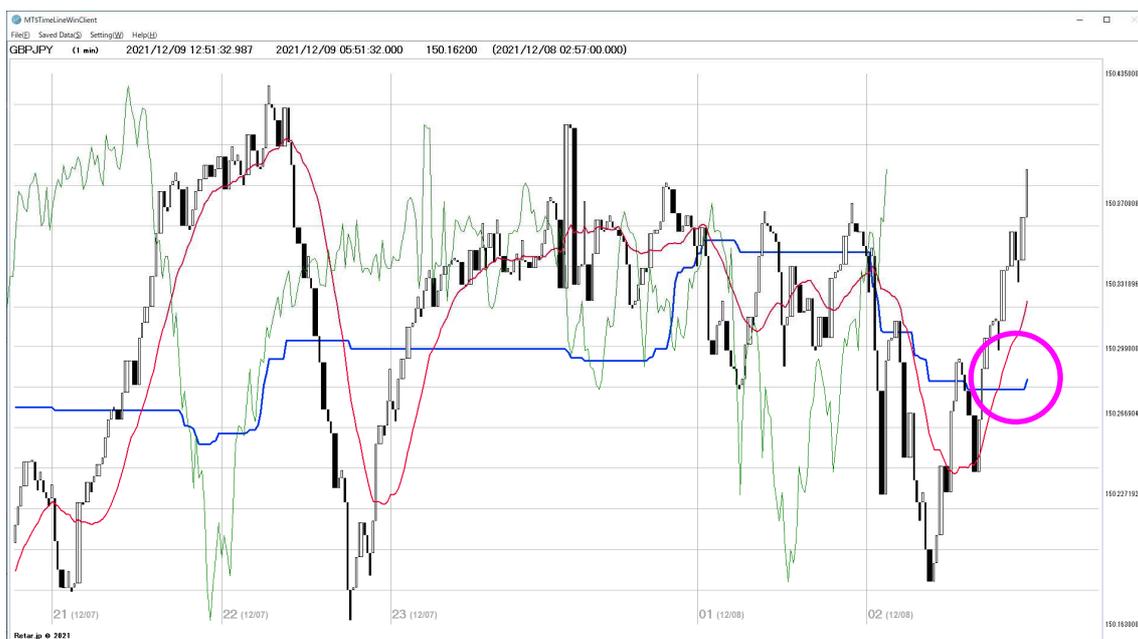


2021/12/08 09:57

基準線が上がり始めました。(マゼンダ丸)

この時点で「トレンド2時間の法則」の通りのキッチリの2時間ではありませんが、ホボ2時間でトレンドが反転したとみなします。

この時点では、いまだ「見ているだけえ〜」です。



2021/12/08 10:00

3分から4分ほど、時系列新値足更新されないことを確認します。

最初の陰線が固まった地点の1分前で構いませんが、更に1分待っています。

この時点で2本の横線を引きます。

緑は最初の高値で陰線を引いた地点。

水色は上げに転換した値段。

考え方としては、緑より上は買って行く局面。

値段が緑を超えるまでは「見ているだけえ〜」です。



2021/12/08 10:04

終値が基準線を割り込みました。

この時点では何もしていないはずですが、もし買い持ちを持っていれば損切です。

そして、マッハで基準線タッチしてくるところからも、持ち合い臭い状況だと判断できます。



2021/12/08 10:07

水色を割り込みました。

この時点でかなり、持ち合い臭い状況だとわかります。

この時点では、基準線は下を向いていないため、上昇相場は継続していると考えます。

しかし、買いでは入れません。

買い転換が出て、マッハで落ちてきたときは、30分～60分ぐらい相場から離れるのが賢明です。



2021/12/08 11:01

1時間ほど放置して、チャートを見ると、基準線が横向きです。  
「ダブルボトムだね」です。

テクニカル分析はあらゆるものを使います。

酒田五法、三尊、ペナント・・・なんでも、引き出しが多ければ、収益機会が増えるはず  
です。

その上で、最優先させるのは、基準線です。

他のテクニカル指標、自分の思いが何だろうが、基準線の方を最優先にします。

この場合は、基準線が上を向いたままを維持しているので、「何処で買おうか？」だけ  
を考える。

更に緑より上に値段が来るまで、仕掛けられません。



2021/12/08 11:17

買ってもイイ領域に入ってきました。

トレンド開始から1時間半。

相場から離れ、他の事ができるのは大事です。

チャートを睨めっこしていると疲れます。

この時点で買うチャンスがないか、考え始めます。



2021/12/08 11:24

下が3手ほど、下げられないでいます。

緑がサポートになっているようです。

直近までレジスタンスだった地点がサポートに転換しており、踏み台運動の可能性含みです。

緑にピットンコのこともあれば、おおよその時もある。

視覚的図形認識が重要です。



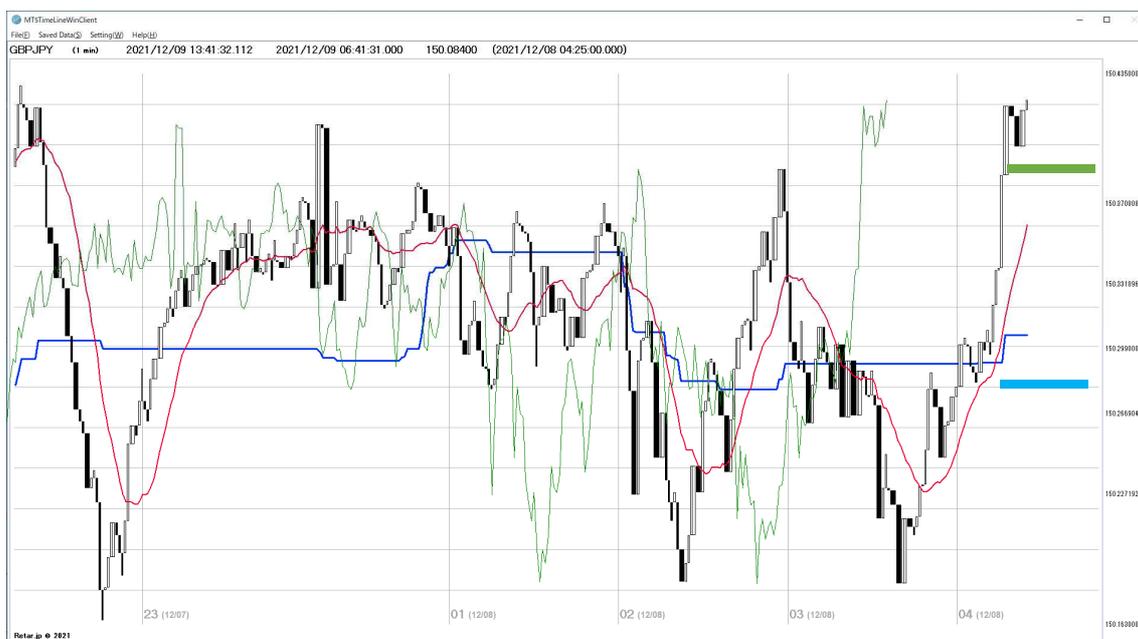
2021/12/08 11:25

新高値をとったため、買いで入ってみる地点です。

損切は 20EMA を実体で本格抜け。

本格抜けとは、20EMA を足が下回った状態です。

基準線までは遠く、凡そ4-5pips の損切を想定しておきます。



2021/12/08 11:32

「買った」はいいのですが、20EMA で何とか支えられています。

この時点で「損切かもなあ～」と覚悟します。



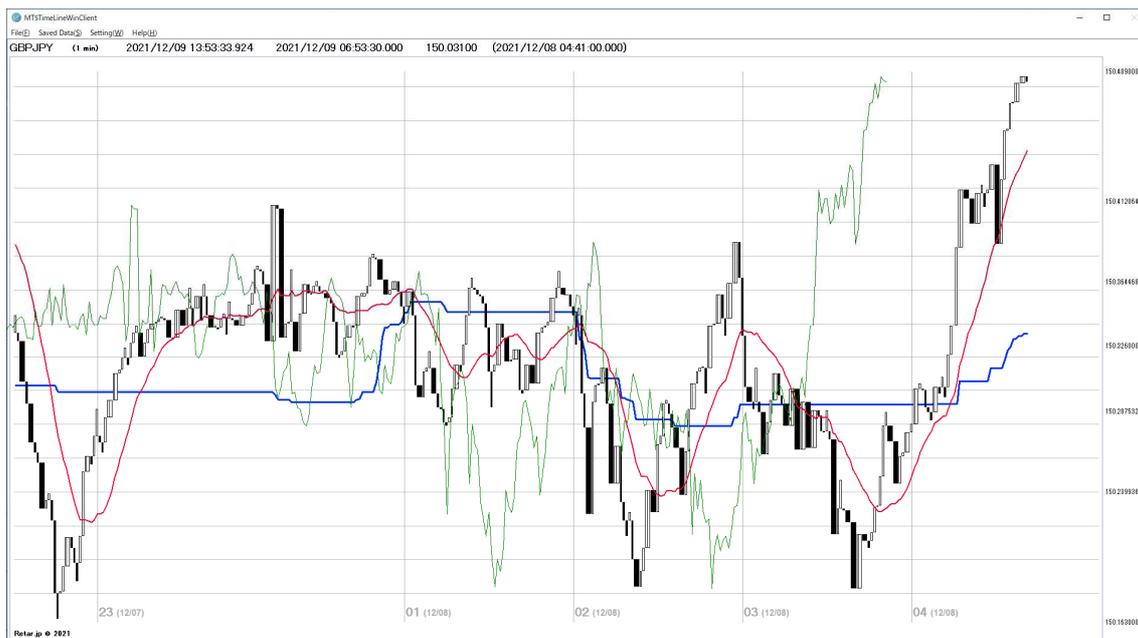
2021/12/08 11:41

幸いにも上がり出しました。

陰線1手を見たので利食いです。

スプレッドを除くと5-6pipsほど、利食えたはずです。

「トレンド2時間の法則」を意識するところであり、とっとと利食って、「見てるだけえ〜」です。



2021/12/08 13:01

トレードしてから、1時間ほど、やはりモミました。

「トレンド2時間の法則」では、「2時間ワンクール」。

ワンクールが終わって、次のワンクールは似てくるのが良くあります。

基準線が上がり始めてから1時間はモミました。

2時間目は上げました。

3時間目はモミましたが、基準線タッチがありませんでした。



2021/12/08 13:17

上がり始めて4時間目です。

2時間目の韻を踏む予定なら、今頃アゲアゲのハズです。

しかし、3時間目よりも足が基準線の近くにありません。

更に、足が完全に 20EMA の下に入ってきています。

このような理由から4時間目は、2時間目のようなアゲアゲにはならず、2時間ごとに違うトレンドが発生するパターンだと認識しはじめる時です。

つまり「梅」トレンド。



2021/12/08 14:10

5時間目に入り基準線が下がり出しました。

下を向いたので売場を考えます。

4時間ほど上げ相場が続いたので「松竹梅」の「竹」です。

1時間目と2時間目のセットの値動きが、3時間目と4時間目のセットの値動きが似ていませんでした。

よって、5時間目と6時間目は、独自の値動きをする想定ができます。



2021/12/08 14:12

陽線を引いたので、緑を切った地点から売りです。

水色は反対方向を向いた地点なので機械的に決まります。

緑は「明らかな押し」としますが、相場の勢いでそれぞれ。

人の視覚では決定できても、機械的に決まりません。

この場合は、前回と同じ地点で陽線を出したため、緑の位置は「ここ」と想定しやすい。

前回の緑の地点が重なっているため、信頼性が高い地点のはずです。



2021/12/08 14:31

本格的に緑を割り込みました。

そして、基準線が下がり出しています。

5時間目は間違いなく、1時間目、3時間目とは異なる値動きです。

急落してしまったため、狙えません。

様子見るしかない状況です。



2021/12/08 16:02

一旦、基準線を超えて戻しています。

急落と同時に仕掛けなくて、セーフでした。

直近2時間のトレンドから、割り込む状況になりました。

丁度、ダブルの割れであり、「トレンド2時間の法則」からすると、直近2時間とは異なる値動きです。

時間の節目であり、新たな値動きかもしれないと考えるところ。

これからの2時間は下落、下落開始からの1時間目、2時間目とは異なる値動きを想定します。

この場合は「松竹梅」の「松」。

下落開始は、マゼンダのダブルボトムがレジスタンスとして、働いていることがわかります。

緑が本格的なレジスタンスの確認となったため、売ります。

損切は緑を実体抜きした時。



2021/12/08 16:23

この場合はレンジ抜けからの下落です。

新値足なので三手離れを利食いにするのも手ですが、直近 6 時間の安値まで狙えそう。

なので、最初の陽線を見た所は見送り。

下離れて陽線で固まったら利食いです。



2021/12/08 16:49

利食い地点から一段下げがありました、「頭と尻尾はくれてやれ、大分、上身もだ  
どお〜」です。

経験的に、テクニカル分析だけで獲れるのは、下落値幅の 1/3 ほどと考えるようにし  
ましょう。



## ■トレード例2・下降パターン

持ち合い相場では、小さく獲るのが基本。

小さな利益を積み重ねられるところを、確実に獲っていく。

持ち合い相場なら、トレンドがあるなら基準線が一方向に向いているはずですが、約2時間持たないなら、ノートレンド、つまり、持ち合い相場と判断します。

2021/12/10 9:36

日替わり直後から始まった上げは、約2時間で終了しています。

このためトレンドの種類は”上げの「松」トレンド”。

8:30頃から始まった上げトレンドは約1時間で、基準線の下向きと共に終わりました。よって、基準線の上げが2時間持たない状況であるため、持ち合い相場である確認がとれます。

やるなら、小さな値幅を狙う局面。

”土器”戻りする可能性を視野(後ほど確認)に即切る、利食う判断です。

トレンド終了時に、三角持ち合いの手掛かりが得られたため、エントリーチャンスと判断しました。

あらゆるテクニカル分析を活用しましょう。

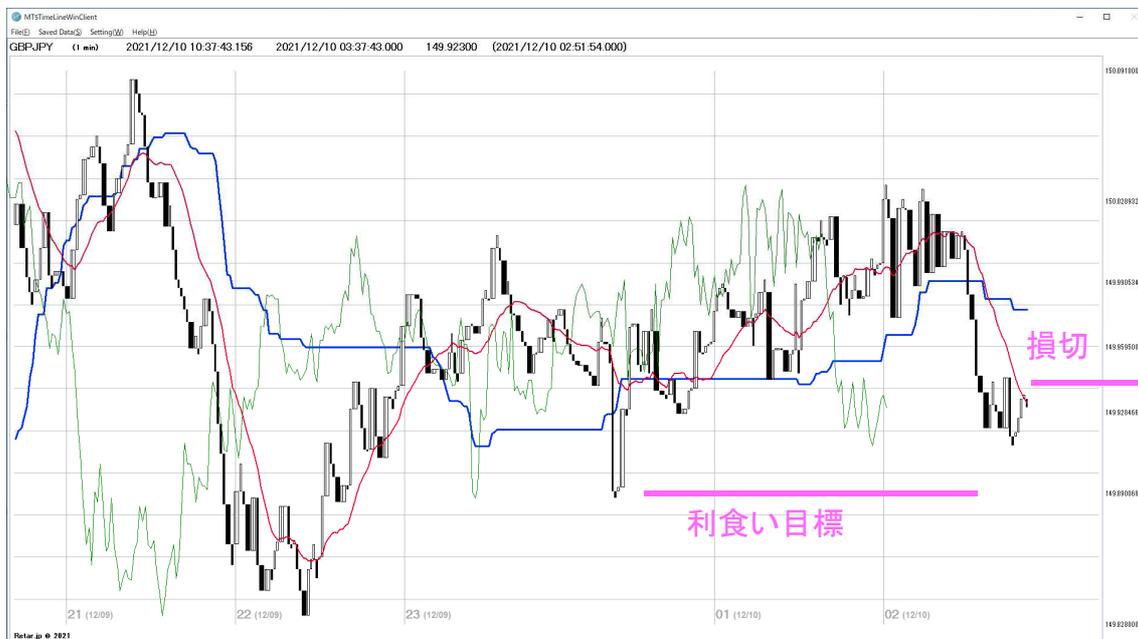


2021/12/10 9:51

3手ほど、20EMA で弾かれたと判断し、売リエントリ。

直近高値を超えてくるようなら損切。

6時間の安値ではないため、利食い目標は直近安値付近です。



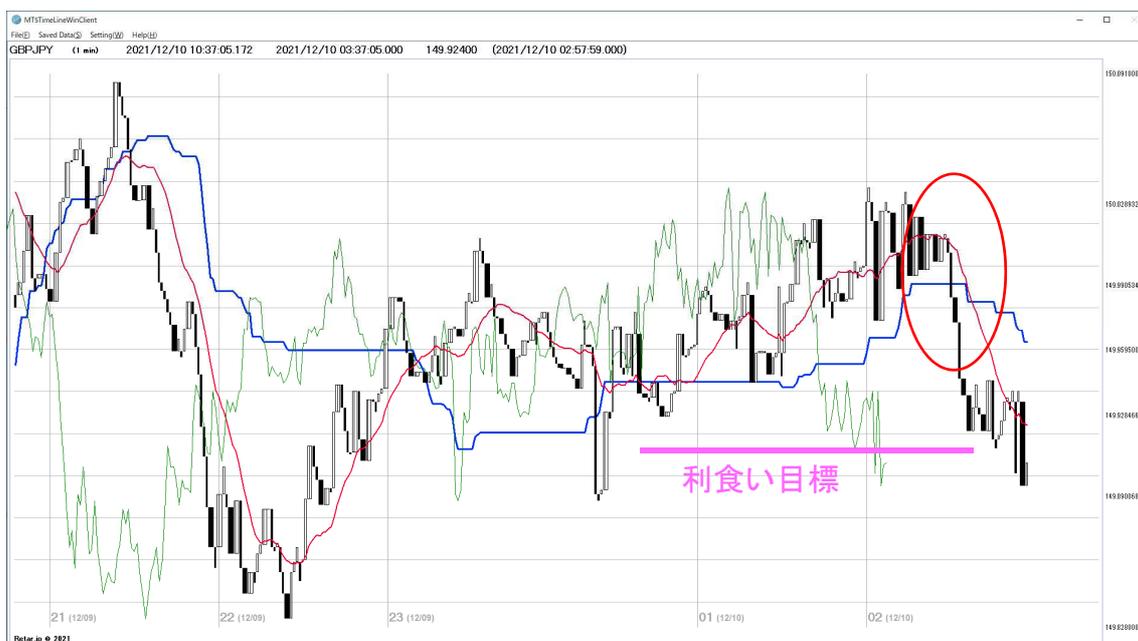
2021/12/10 9:57

速攻で利食いました。

想定していた下げは、赤丸のようなスルスルと下がる奴です。

しかし、躊躇いながらの下げであるため、目標に到達せずに利食いです。

危険だとわかっているのに、利食いは速く。



2021/12/10 10:14

その後は、6時間の最安値をとりました。

こういう時は「別に悔しくなんかない」とか、「なんか悔しい」とか、「頭と尻尾はくれてやれ、大分、上身もだけどお～」とか叫びましょう。

悔しいと思ってもトレードでは、勝っています。

勝てる時に、勝てる事をして、勝ったのであれば、それ以上は望まない。



2021/12/10 10:52

エントリー時に考えた”土器”想定は正しかった確認をしましょう。

値段が売った地点より上まで戻る想定は正しかったと言えます。

スキャルピングのトレードで勝てる時は、5分から10分ぐらいしかないのが普通です。

そういう瞬間を的確に捉えましょう。



### ■トレード例3・レンジ確認

レジスタンス、サポートの確認にも使える例を示します。

2021/12/10 17:20 ポン円・1分足・時系列新値足

基準線が反対方向に折れ曲がった(緑)と初押し地点(水色)を使ったレンジの確認。  
それまで、切り上げていたものが、切り下がりになった(逆も)開始地点の値段です。  
初押し地点は、基準線が反対方向に動き出した時の最初に押しとなった値段です。

直近2回の基準線の反転が確認できます。

確認作業をするだけで、レンジを想定することができます。

仕掛けるのは「下か上に抜けてからね」と想定しておく、楽です。

